

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4150180018
法人名	医療法人 清友会
事業所名	グループホーム 和泉
訪問調査日	平成20年3月13日
評価確定日	平成20年5月13日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150180018
法人名	医療法人 清友会
事業所名	グループホーム 和泉
所在地	佐賀市久保泉町大字川久保5457番地 (電話) 0952-98-3192

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(平成20年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 760 円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	65 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清友病院 ・ 野口クリニック ・ 小川歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や畑に囲まれた静かな環境の中、広い敷地に経営母体の病院と隣接して介護老人保健施設・居宅介護サービス事業所・グループホームが建っている。ホームは2階建ての2階部分であるが、傾斜地に建っているので2階部分が出入り口となっており、外観的には平屋建てのようである。玄関前には野菜畑や花壇があり、季節を感じられるとともに見たり、食したりと入居者の楽しみとなっている。バス停が事業所の前にあり、系列施設利用者や近隣住民が利用するなど多くの人々が集まってくる環境となっている。経営母体が病院で医療連携体制ができており、入居者や家族の安心に繋がっている。敷地内系列施設と連携して、災害避難訓練が隔月毎に実施されており、安心・安全のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では「入居者が自分でお金を持つことの大切さ」が課題となり、全職員で話し合いを重ねて買い物時に自身で支払いをして頂くよう改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	検討会議に諮り、全職員で自己評価に取組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の日々の状況や行事報告、双方向の活発な意見交換が行われ、ケアサービスの向上やホームの理解を深められるよう活用している。運営推進会議開催は全入居者・全家族に開示され、参加を促すなど利用者と事業所の開かれた関係作りに活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議の開催は全家族・全入居者に案内して参加を促し、会議録は全家族に渡している。職員は家族の面会時には必ず声を掛け、話をして情報交換するよう心掛けている。ホーム玄関に意見投函箱が設置され、家族が意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は検討会議に諮り、運営に反映させる体制ができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地元と交流することを心掛けている。ホームのすぐ前にバス停があり、地域住民と顔を合やす機会も多く、近所づきあいや顔見知りの関係作りに活用している。野菜の育て方など地域の方々から教わることも多い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭生活の延長として、「その人らしく暮していける様に支える」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の業務を通して理念の共有に努めている。管理者は、勤務中も気付いた時には理念を確認し、職員と共に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の一員として地元と交流することを心掛けている。事業所の前にバス停があり、近所づきあいや顔見知りの関係作りに活用している。ホームの野菜畑では種まきや野菜の育て方などを地元の方から教わることも多く、学校行事案内を持参する小学生もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については全職員で話し合いを持ち、改善課題は検討を重ねサービスの向上に活かしている。今回の自己評価は検討会議に諮り、全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地区代表者や入居者・家族等からなり、2ヶ月に1度開催されている。会議では活発な意見交換があり出された意見は日常のサービスに活かされ、また、議事録他関係書類も残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の法人が行政との窓口になっており、ホーム独自では行政の担当者との交流は行われていないが、情報が伝わる体制はできている。問題点や不明なことがあれば、法人本部を通して連絡し、相談できる関係ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	運営推進会議の開催は全家族に案内して参加を促し、会議録は全家族に渡している。家族の面会時には必ず声を掛け、写真を見せて近況報告をしている。遠方の家族には、写真を同封した手紙や電話で連絡をとり、日常の様子や健康状態を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等申立先を明記するとともに、運営規程に苦情処理手順を明記し、家族に説明している。玄関に記入用紙と投函箱も設置され、家族が意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は検討会で検討し、運営に反映させる体制ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人本部において決定されるが、ホームの特性を考え異動は最小限にするよう配慮されている。替わる場合は異動するまでの期間を設け、入居者には替わることを早目に伝えて、混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のホーム内研修や法人内外の研修など、多くの研修の機会が確保されている。研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば勤務の変更など配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としてのネットワークづくりや勉強会はないが、個人的には同業者と情報交換している職員もおり、サービスの質の向上に活かしている。同一法人内の職員とは勉強会や交流会を開催している。	○	今後は個人的でなく連絡会等への加入により事業所の職員として研修会参加や情報交換をしていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を通して十分な説明をしたり、入居者と顔なじみになってもらうなど安心して入居できる支援が行われている。入居申し込みをされた時点で職員に情報が伝わる体制ができている。併設施設を利用されている方には職員が出向き、入居前に信頼関係を築く努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理法や調理・味見、古くから伝わる行事、菜園の耕し方や花苗の育て方など入居者から学ぶ事は多く、職員と入居者との互いに支え合う関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活を通して入居者と話をすることを心掛けており、思いや意向を汲み取る努力をしている。また、家族からも、これまでの暮らしぶりや思いを聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。職員は日々の暮らしの中で入居者の変化や異常を敏感に感じ取ることを心掛けている。変化があれば主治医に報告し、家族にも伝えられ介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化があった時はその都度見直しが行われている。検討会が毎月開催されて介護計画の確認が行われ、現状に即した計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体が病院であり医療連携体制が出来ていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できる体制がある。家族や本人の要望で、美容院や親戚訪問などの外出支援も柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続を支援し、安心して医療が受けられる体制ができている。通院などの送迎は本人や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・看とりケア対応に関する指針」があり、入居時に説明が行われている。医師とも相談し入居者や家族の意思を確認しながら取り組んでおり、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から理念を念頭に置き、入居者の尊厳を大切にし、誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、それに囚われることなく入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。散歩や買物など個人の希望に添った支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付け、配膳や後片付けなど入居者ができることは職員が見守りながら支援している。入居者は会話を楽しみながら食事をされており、職員はさりげなくサポートしている。職員は検食者のみが一緒に食事をしている。	○	共に暮らし家族一緒に食事をとる事の大切さを考え、職員と入居者が一緒に食事をとれることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望がある場合は、入居者は毎日の入浴が可能である。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、時間や順番をかえたり職員が優しい声掛けで対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、食事の用意や後片付け、来訪者接待、園芸や菜園づくりなど生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。入居者と相談して花見などに出かけたりして気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地面積が広く入居者は自由に庭や菜園に出ることができる。職員は見守りながら支援している。天気の良い日には近隣や併設施設へ散歩に出掛けている。天気の悪い日は併設のデイケアで運動やレクリエーションに参加するなど、ホームに閉じこもらない生活を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみで日中は施錠しておらず出入りは自由である。ホーム内随所から出入り口の見通しが利く構造であり、職員は常に入居者の状況を把握するよう心掛けて支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の避難誘導訓練を年2回実施している。敷地内に職員寮や併設施設・病院があり、夜間の誘導体制もできている。	○	今後は、施設職員だけでなく、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士がみており、栄養バランスの把握はできている。水分はいつでも飲めるよう支援されており、食事からの分を除いて1日1リットルの水分摂取を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間など入居者が集う場所には休憩用の椅子が多数置かれている。居間は広く、天窓から自然光が多く取り込まれて心地よい明るさが提供されている。また、居間に畳敷きの一角があり、寛ぎの場として利用されている。机の上には季節の花が飾られ、季節感を感じる支援がされている。トイレは広く、便器は高齢者に合った高さであり優しい造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドやダンス・冷蔵庫・仏壇など何でも持込みが可能である。壁には写真やカレンダー、手芸作品が飾られ、その人らしい居室作りがなされている。床はフローリングであるが、希望されれば畳を敷くことも可能である。		